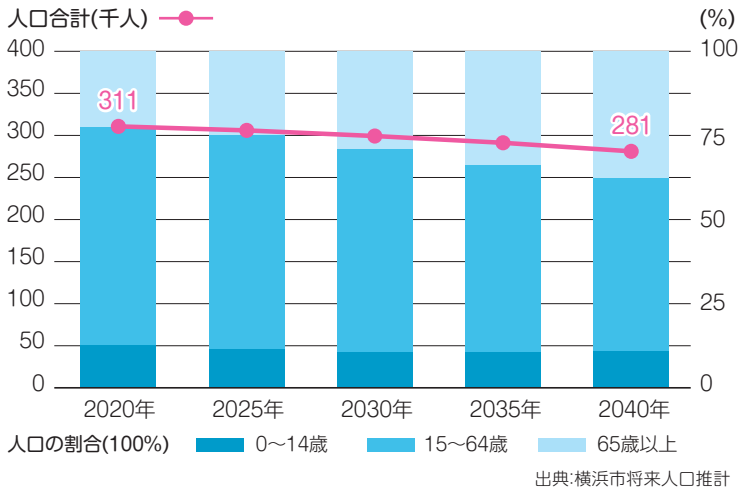


第2章 青葉区の状況について

第1節 統計データから見た青葉区

● 青葉区の人口の推移・推計

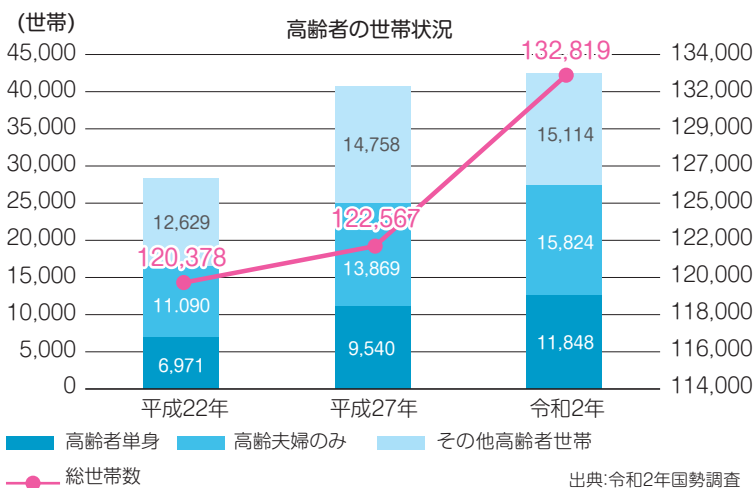


青葉区の人口は2020年をピークに減少へと転じ、2040年には約10%減少する見込みです。

高齢化率は、2020年時点で22.4%と市平均を下回っていますが、2028年には市平均を上回り、2040年には約38%に達します。

年少人口割合は、2020年時点で12.6%と市平均を上回っていましたが、2040年には10.7%となり、市平均と同水準になると推計しています。

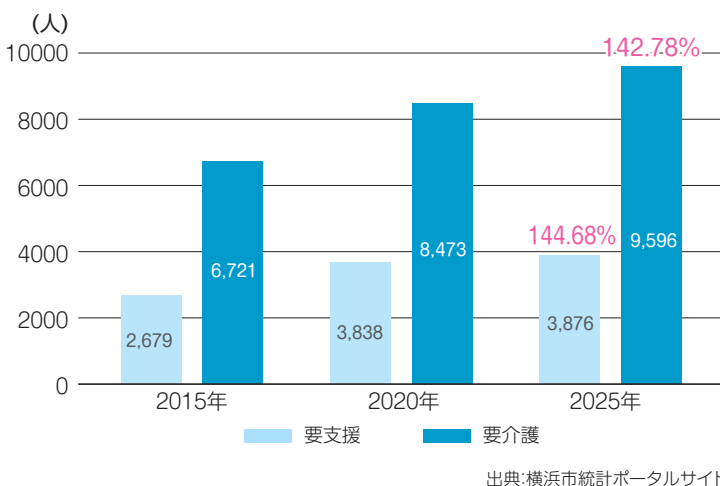
● 青葉区の家帯状況の推移



65歳以上の高齢者がいる世帯は約4万3千世帯で、全世帯の約32%を占めており、増加傾向にあります。

高齢者単身世帯は、過去10年間で約2倍に増加しており、高齢化の進展に伴い、今後も高齢者世帯は増加すると見込んでいます。

● 青葉区の介護保険認定者数の推移

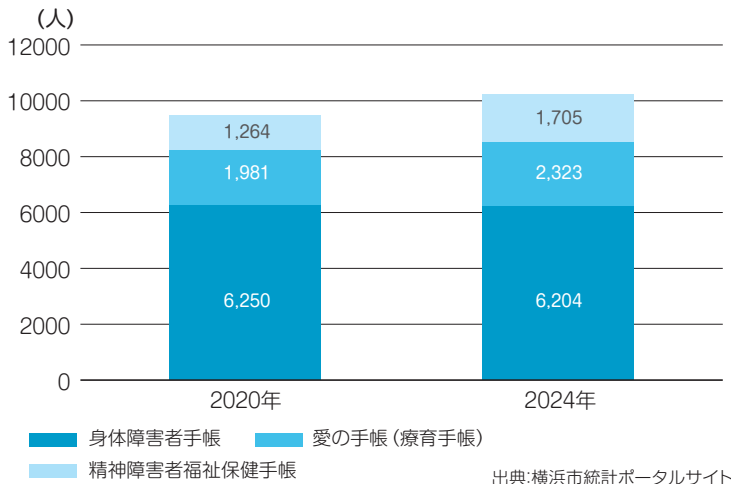


青葉区の要介護認定率は全国及び市平均を下回り、健康意識の高さがうかがえます。しかしながら、2025年3月末時点の介護保険認定者数は、2015年同月と比較して約1.4倍に増加しています。

この増加は、高齢人口の全体的な増加によるものと推測され、今後も高齢化の進展に伴い、認定者数が増加すると見込んでいます。

※要介護認定率:要介護・要支援者÷第1号被保険者(65歳以上の人)

●青葉区の障害者手帳所持者数の推移



障害者手帳を2024年3月末時点で所持している人は10,115人で、人口比率は約3%です。身体障害者の数はやや減少している一方で、知的障害者及び精神障害者の数は増加しています。

市全体でも同様の傾向があり、地域には障害のある人が多く暮らしていることがわかります。

●青葉区の平均自立期間と平均寿命

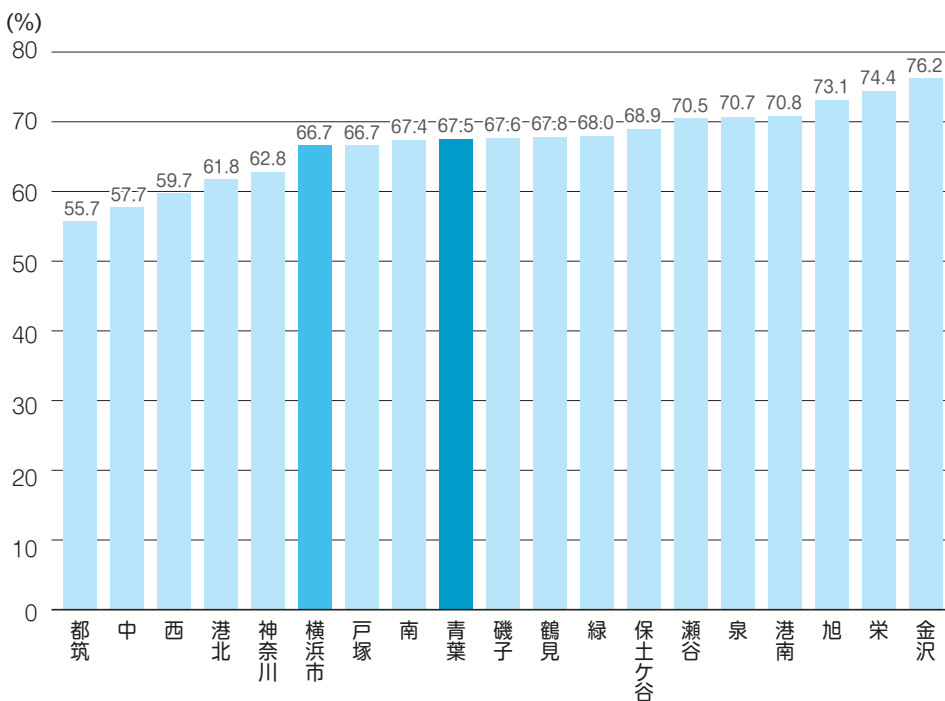
2021年	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	80.25	81.97	84.06	87.71
青葉区	82.26	83.85	85.10	88.36

※平均自立期間:日常生活に介護を要しない期間の平均
 ※平均寿命:0歳の人があと何年生きられるかの指標

出典:第3期健康横浜21

青葉区の平均自立期間及び平均寿命は、いずれも市平均を上回っており、全国の市区町村と比較しても上位です。いずれの数値も10年前と比較して伸びており、青葉区には健康意識の高い人が多いことがわかります。

●青葉区の自治会町内会加入率(2024年4月1日現在)



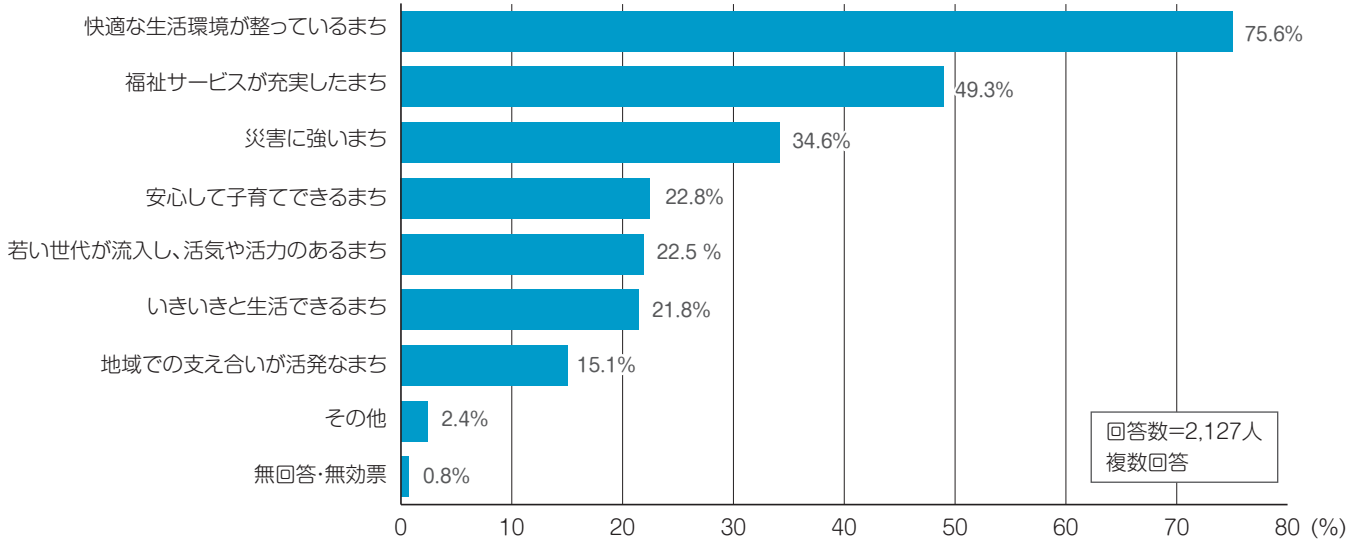
青葉区の自治会町内会加入率は67.5%で、市平均の66.7%を上回っています。

しかし、10年前の加入率(75.0%)と比較すると、7.5ポイントの減少となっており、地域における助け合いや課題解決の力の低下が懸念されます。また、自治会活動の担い手不足が課題となっています。

第2節

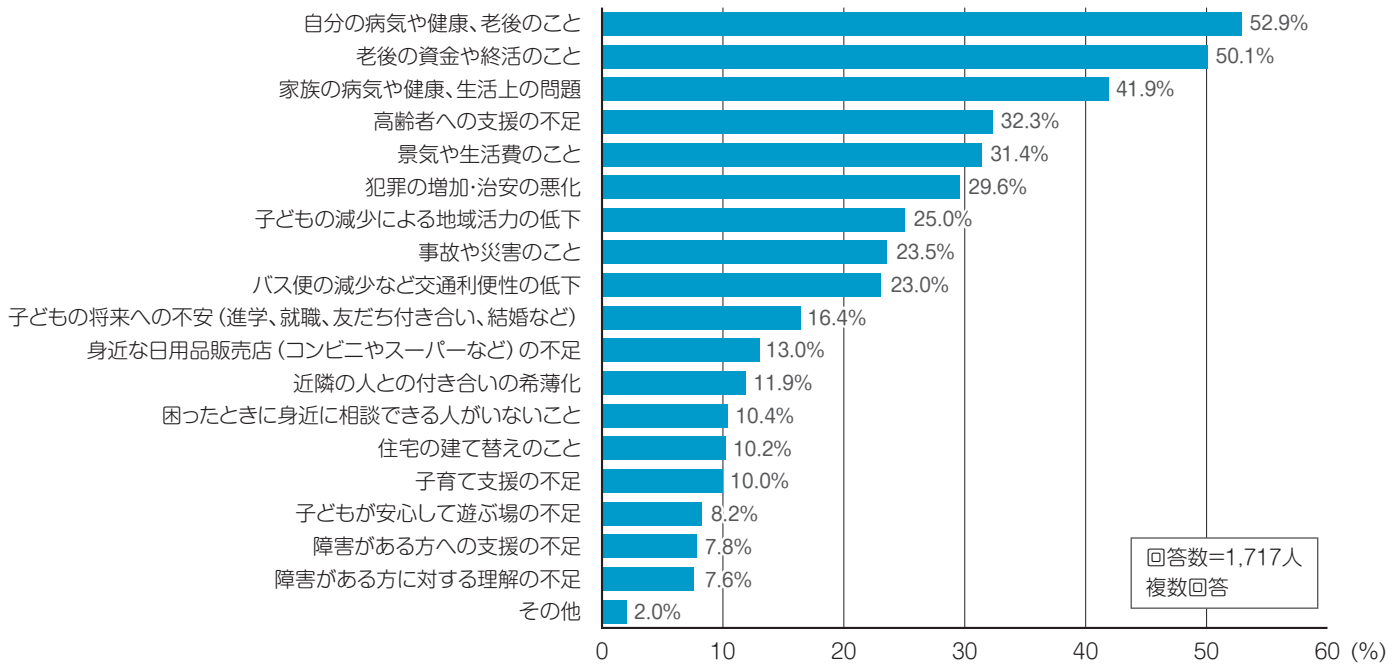
青葉区区民意識調査から見た青葉区 (令和7年度青葉区区民意識調査の回答データを基に作成)

● 青葉区が将来どのようなまちであってほしいか



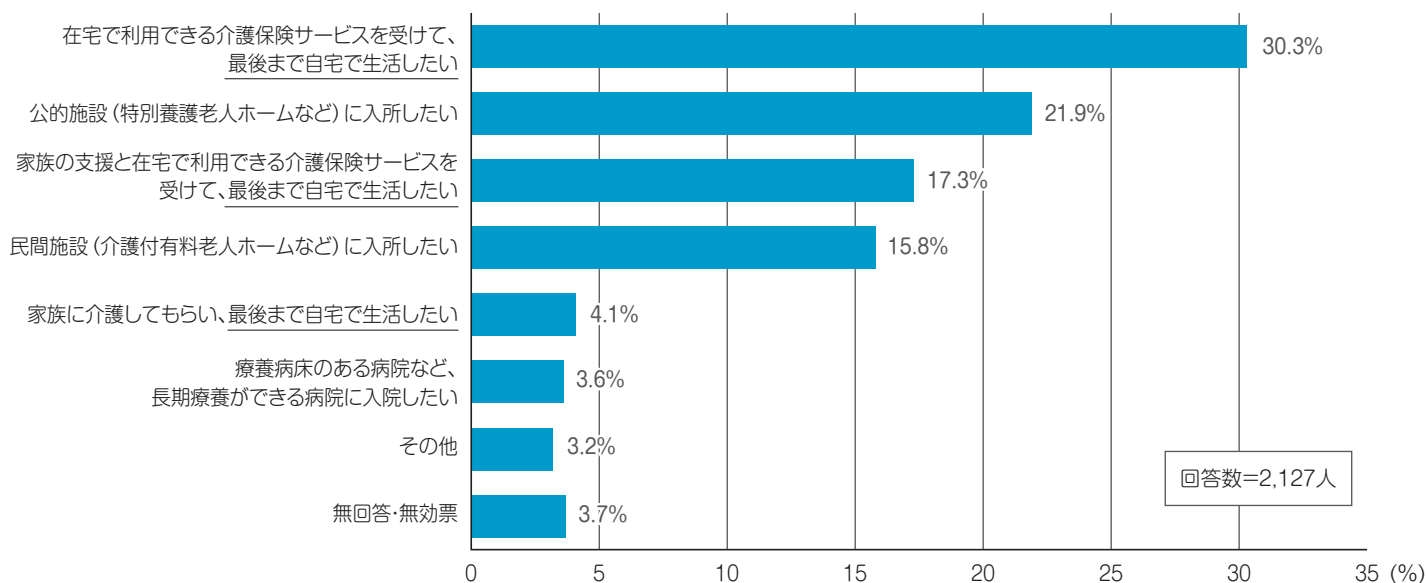
「快適な生活環境が整っているまち」(75.6%)を望む人が最も多く、次いで「福祉サービスが充実したまち」(49.3%)、「災害に強いまち」(34.6%)となっています。また、「地域での支え合いが活発なまち」は15.1%となっています。これらの結果から、地域で安心して生活できる環境へのニーズが高いことがわかります。

● 青葉区に住みつづけたいと思っている人が、将来、不安に感じていること



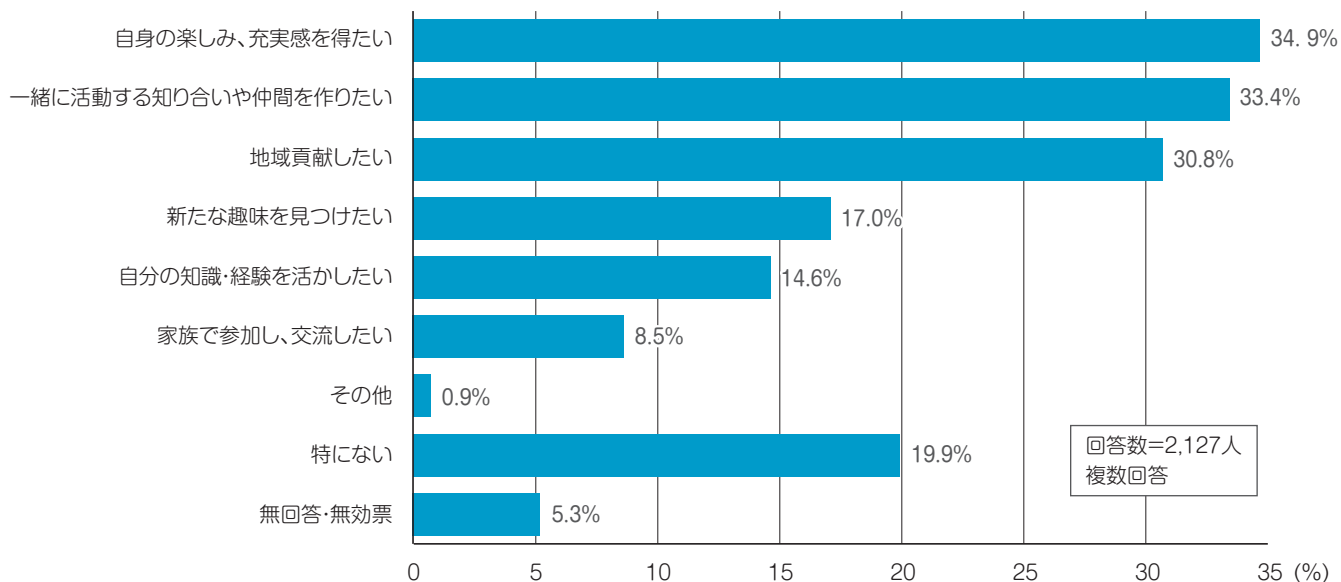
「自分の病気や健康、生活上の問題」が最も多く、次いで「老後の資金や終活のこと」、「家族の病気や健康、生活上の問題」、「高齢者への支援の不足」となっています。

●自身に将来、介護が必要になったときの生活像



回答者のうち、1,100人 (51.7%) が自宅での生活に関する選択肢のいずれかを選んでいきます。住み慣れた地域で安心して生活をするために、相談機関を把握しておくことや日頃から地域の人と関係性を築いておくことが大切です。また、地域で支え合う環境づくりも大切です。

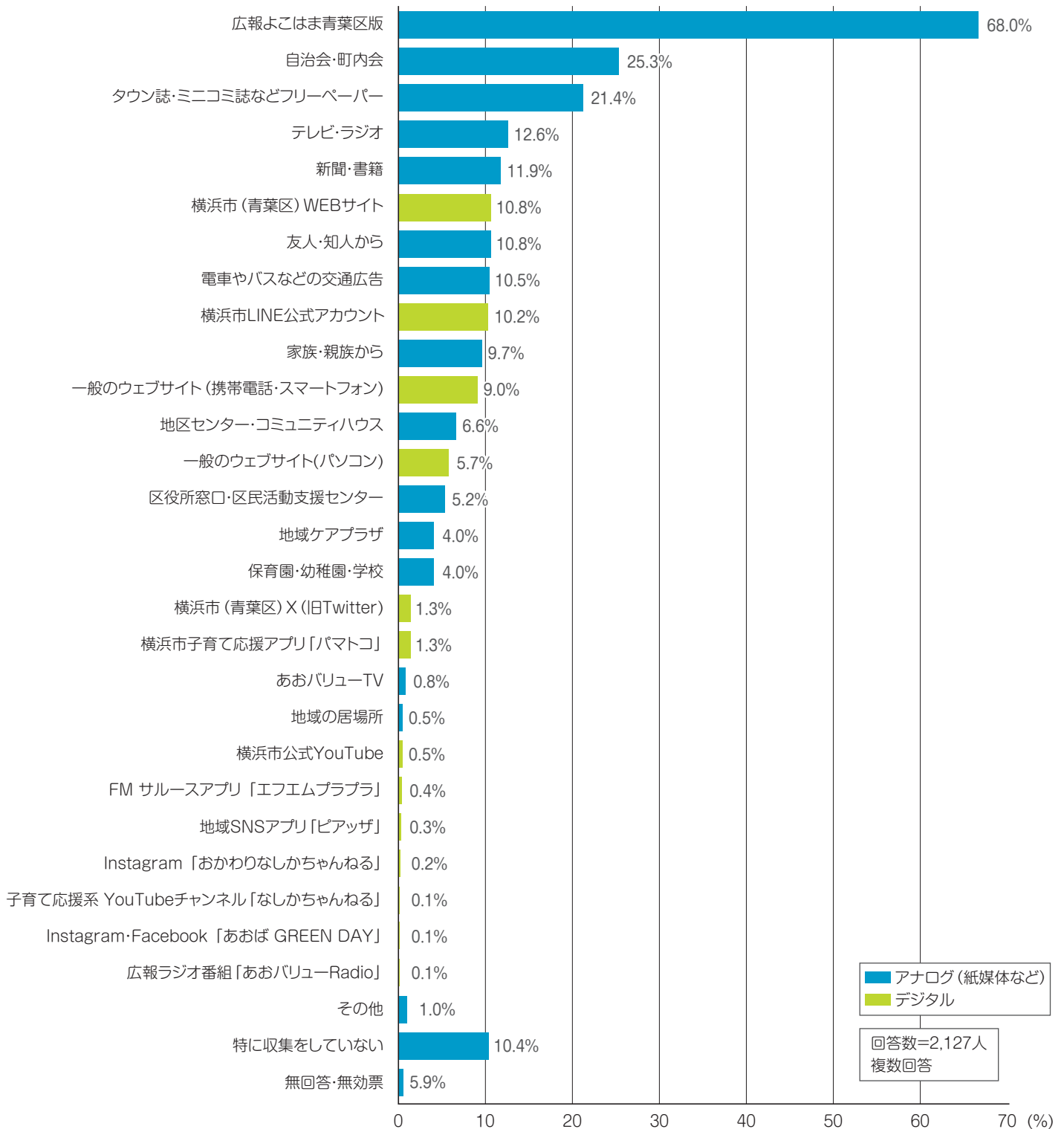
●地域活動に参加する場合、期待すること



「自身の楽しみ、充実感を得たい」(34.9%) が最も多く、次いで「一緒に活動する知り合いや仲間を作りたい」(33.4%)、「地域貢献したい」(30.8%) となっています。

また、【地域活動の参加有無に関する項目】では、回答者2,127人のうち、地域活動に参加している人が602人 (28.3%)、参加してみたい・興味のある人が1,084人 (51.0%) となっており、約8割の人が地域活動に関心を持っています。これらの結果から、地域活動を好意的に捉えている方が多いことがわかります。

●青葉区からのお知らせや区内イベント情報の収集手段



情報の収集手段としては、「広報よこはま青葉区版」(68.0%)が最も多く、次いで「自治会・町内会」(25.3%)、「タウン誌などフリーペーパー」(21.4%)、「テレビ・ラジオ、新聞・書籍」(12.6%)となっています。

デジタルによる情報発信が進む中でも、紙媒体等によって情報を得ている人の割合が高いことから、デジタルとアナログの両媒体を併用した情報提供のあり方が求められていることが伺えます。

第3節

第4期計画(令和3年度～令和7年度)の振り返り

第4期計画について、青葉区地域福祉保健計画策定・推進検討会*1や区計画プロジェクト*2を開催し、取組の実施状況や結果などの共有、振り返りを行いました。

計画期の前半は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域で顔を合わせる機会が制限されました。そのような状況でも、LINEを活用した高齢者の見守りや屋外の集いの場の開催など、新しい支え合いの形が生まれました。

一方、生活課題を抱え込み、重篤化してから関係機関につながる傾向が強いことから、周囲に相談できる関係づくりが必要であることが見えてきました。また、担い手・受け手が固定されず、誰もが役割を持てる活動のあり方、健康づくりのさらなる促進等の重要性も改めて認識できました。

中学生版リーフレットを活用した地域の方々と中学生の意見交換会をきっかけに、地域で中学生が活躍するなど幅広い世代が地域福祉に関わる機会を創出することができました。

【取組と成果】

柱① 相互理解・支え合い

- ・認知症に関する研修や映画上映・VR体験等、様々な手法を活用して、普及啓発が進んだ。
- ・障害理解講座などを通じ、障害のある方と地域のつながりの促進ができた。

柱② 生き活き・すこやか

- ・地域で障害者施設の製品販売の場が広がり、当事者の労働意欲の向上につながった。
- ・コロナ禍により、一時休止を余儀なくされた地域活動が収束と共に復活してきた。

柱③ 場・機会・情報の充実

- ・子育て支援ネットワーク連絡会やひきこもり研修会などの機会を通じ、支援者間で地域課題に対する理解が深まり、ネットワークの強化が図れた。
- ・LINEやXなどのアプリを活用し、即時性のある情報発信の手法が広がった。

【課題と今後必要なこと】

柱① 相互理解・支え合い

- ・認知症や障害などを周りに知られることの抵抗感が根強い。抱え込まず相談できるつながりが大切。
- ・地域の中でつながりを作るためには、お互いを理解し合うことが第一歩となる。

柱② 生き活き・すこやか

- ・地域活動の担い手不足や高齢化が深刻化している。新しい担い手を見つける機会を増やし、多世代で協力しながら活動を継続したい。
- ・地域に居場所を持つきっかけが持てず、リタイア後に孤立してしまう方もいる。

柱③ 場・機会・情報の充実

- ・SNSの活用は今後の広報活動に不可欠であるが、紙媒体も併用する必要がある。
- ・地域でつながり合える場・機会の維持と拡充が引き続き必要。

*1 地域福祉保健に携わっている各種団体・委嘱委員、学識経験者等で構成する計画の策定・推進に関する検討の場

*2 区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザによる計画の策定・推進に関する検討の場

第4節 関係者アンケートの結果

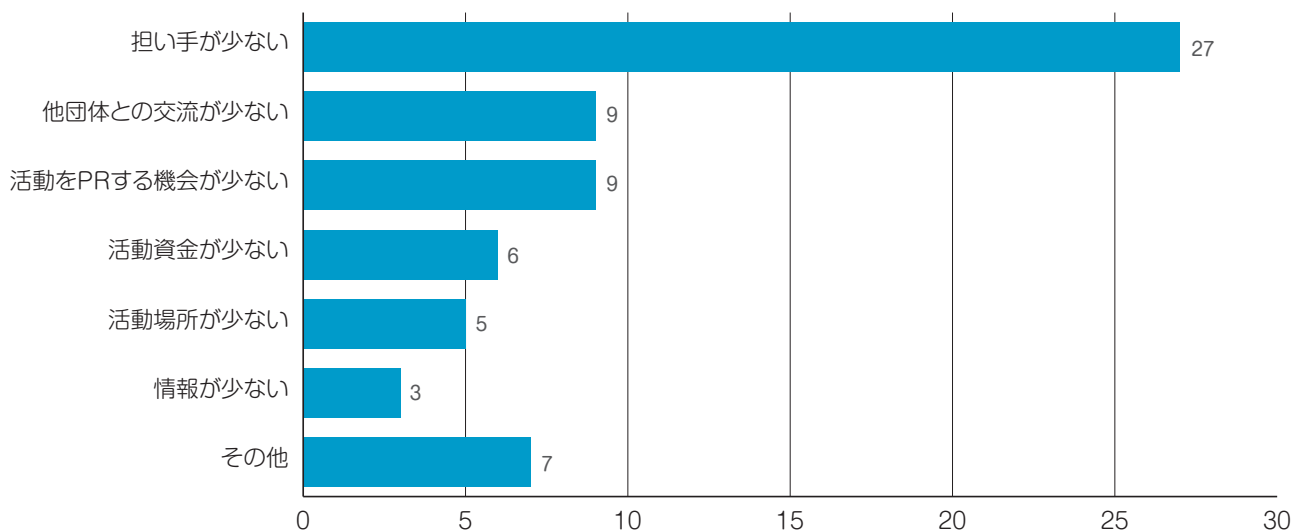
第5期計画策定に向けて、地域で活動している団体・施設にアンケートを実施し、課題や日頃感じていることについてご意見をいただきました。

対象団体 地区連合、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、主任児童委員連絡会、青葉区社協当事者団体、青葉区社協障害者施設連絡会、青葉区社協専門機関部会、青葉区社協ボランティア・市民活動分科会、福祉保健活動拠点利用者懇談会、ふれあい助成金説明会、自立支援協議会、つながりミーティング、小中学校PTA

実施期間 令和6年9月～令和7年4月

回答結果 回答団体数39

(1) 各団体や施設が抱える課題について(複数回答あり)



(2) 各団体や施設が考える「青葉区の目指す姿」について(抜粋)

- 優しさが伴う言葉かけとお互いに助け合いが出来る街。
- 子どもの人権が守られていて、健やかに育ち合うことができる。
- 住み慣れた地域で自分らしく暮らせるような活躍の場がある。
- ほかの団体や施設などと顔の見える関係が維持され、連携して支援する仕組みがある。
- 認知症や障害等があっても地域で安心して自分らしく暮らせるように、身近な相談窓口や支援の取組がある。

(3) 「青葉区の目指す姿」に向けて、各団体や施設ができること(抜粋)

- 障害のある方とない方が一緒に楽しむことを通して、相互理解を深める場の提供。
- 認知症や障害を理解するための講座や健康や暮らしの課題についての情報提供。
- 団体同士の交流会や連絡会などを通じて、日頃からお互いに知り合える関係づくり。
- 学校・地域と連携をとり、子供達が安心して生活できる環境整備を行う。
- 地域活動の充実を図る。